



かどわきっ子

メモリアルデー

先週13日(金)は、メモリアルデーを開催したところ、来賓の皆様をはじめ、多くの方に御参観いただきました。誠にありがとうございます。

5年生は、1学期の学びをまとめ、立派に発表してくれました。自然の脅威や復興へのたくましさを感じられたと思います。

御高話いただいたコリンズ様、当時のことや思いを伝えていただきました。体験された方の話は、それだけで価値があります。貴重なお話、ありがとうございました。

会の挨拶でも申しましたが、このメモリアルデーには、二つの意味があります。

- ①噴火災害の記憶を風化させない。
- ②支援いただいたことを忘れない。

当時のことを語れるのは、間違いなく御家族のみなさんです。たくさん、たくさん話す中で、繰り返し、繰り返し話す中で、子どもたちの中に何かしらの芽を育てていければと思います。

残されている記録を見ると、日本全国の方が大野木場を応援してくださっていました。大人だけでなく、同年代の子どもたちからの激励や当時の交流を知りました。

「ありがたい」と思うと同時に、「どうしてだろう」という疑問の気持ちも出てきました。

支援物資を送ってくれた子どもたち、激励の手紙をくれた子どもたち、温かい交流をしてくれた子どもたち。この子どもたちは、会ったこともない大野木場小学校のみんなに、どうしてこんなにもしてくれたのだろうと。

子どもの自発的な思いだけでなく、その子たちの御家族が、通う学校の先生方が、

大野木場の惨状を知り、何かできないかと子どもたちの心に強く訴えてくれたのかもしれないかもしれません。そうだとすると、子どもたちは、大人たちの思いに精いっぱい答えてくれたのだと思います。皆さんの心に当時のことが残っているように、支援や激励文をくださった方の心にも温かいものが残っていることでしょう。

このメモリアルデーを通して、大野木場小学校に通う子どもたちが、災害当時の大野木場を応援してくれた子どもたちのように、「他を思いやる温かい心」の持ち主になってほしいと強く思いました。そのためにも、当時の思いをお子さんにお話しただけると嬉しく思います。

ちょっとフレイク

先月、山口県の角島まで行ってきました。島に渡る橋の景色がとても有名です。知人にこのとき撮った写真を見せると、一言「やばいね」の返事。そうです、驚くくらいの美しさなのです。ちゃんと伝わったでしょうか。

「やばい」は、若い人に限らず、子どもから年配の方まで多くの場面で使われています。親しい間柄や、その場の雰囲気分かる人同士ならば問題ないでしょう。似たような感じで、「えぐい」これもなかなかの曲者です。称賛しているのか、それとも否定しているのか。

言葉は、事実や思いを伝えるツールです。「やばい・えぐい」だけでなく、言い換えの言葉を知っていないと正しく正確に伝わらないことがあります。その人がもつ語彙の量が、大きく左右します。

2学期は各学級で本を借りる曜日を決め、1冊は家に持ち帰るようにしています。やばいくらい読んでくれるといいなあ～。